

編 修 趣 意 書

(教 育 基 本 法 と の 対 照 表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
102-91	高等学校	地理歴史科	歴史総合	全学年
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
221 明成社	歴総 712	私たちの歴史総合		

1、編修の基本方針

教育基本法第2条に掲げる教育目標を達成するために、以下の諸点に意を用いた。

(1)幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い豊かな情操と道徳心を培うため、歴史的な見方・考え方を身につけられるよう工夫した。具体的には、全編を通じて、歴史を俯瞰的に把握できるよう、編の冒頭に「学ぶにあたって」というリード文掲げる等である。

(2)個人の価値を尊重して能力を伸ばし、創造性を培い、自主および自律の精神を養い、いかなる職業や生活にも歴史的な背景や経緯があり、そこで培われてきた歴史的な意義があることに気付かせるよう意を用いた。具体的には、コラムなどの発展的な記述のなかで、多面的・多角的な視点から人物や事項を掘り下げて記述した等である。

(3)全体を通じて、正義と責任、男女の本質的な平等、自他の敬愛と協力を重んじ、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう、意を用いた。具体的には、歴史 View など発展的な記述中の「来日外国人が見た日本人像」「佐野常民と日本赤十字社」「板東俘虜収容所と「第九」」「ポーランド孤児を救出した日本人」などである。

(4)生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養えるよう意を用いた。具体的には、近代化と現代的な諸課題の例示「明治期における森林の活用と植林」などである。

(5)伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養い、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう、意を用いた。具体的には、歴史 View など発展的な記述において、他国との文化交流のなかで新しい価値を生み出した事例「浮世絵とジャポニズム」「日本美術を救ったフェノロサと岡倉天心」「捕鯨と日本人」などである。

2、対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
「歴史総合」を学ぶにあたって	歴史を学ぶ意義について考察した叙述を巻頭におき、歴史総合を学ぶにあたっての導入とした。(第1号)	見返し
歴史の扉		4～11 ページ
(1) 歴史と私たち	「歴史と私たち」では身近な問題から、歴史への興味関心を	

(2) 歴史と資料	<p>高められるよう工夫した。(第1号)</p> <p>「歴史と資料」では、歴史の叙述が資料に基づいていることに気付かせ、資料の読み取りについて記述した。(第1号)</p>	
第1編 近代化と私たち 近代化への問い	<p>「近代化への問い」においては、第1編の導入として7つのテーマに即した資料を配し、その資料を読み取るなかから、近代化の時代への興味関心を喚起し、内発的な問いを導けるよう配慮した。(第1号)</p>	12～19 ページ
<p>1章 結びつく世界と日本の課題</p> <p>1節 18世紀の日本とアジアの経済と社会</p> <p>2節 工業化の進展と世界市場の形成</p>	<p>1章では、近代化に向かう欧米の動きにアジアや日本がいかに関わり、欧米主導による世界経済システムに組み込まれていったのかを地図や資料を用いながら叙述した。(第1号)</p> <p>「世界が驚いた伊能忠敬の日本地図」では、17年の歳月と労苦をかけ、正確な地図を追求する伊能忠敬の姿に、生徒に真理を求める態度とは何かを示唆し、勤労とは何かを考える配慮をした。(第1号、第2号)</p> <p>コラム「高杉晋作の上海視察と『開国図志』」では清の様子を目のあたりにした高杉晋作や日本の知識人が抱いた危機感を、「浮世絵とジャポニズム」では浮世絵が広く西欧で普及し、ヨーロッパの美術に多大な影響を与えたことを叙述し、わが国を愛する態度を養う配慮をした。(第5号)</p>	<p>20～41 ページ</p> <p>39 ページ</p> <p>35、38 ページ</p>
<p>2章 国民国家と明治維新</p> <p>3節 立憲体制と国民国家の形成</p> <p>4節 列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容</p>	<p>2章では、西欧列強による帝国主義的な植民地化による世界分割が進むなかで起こった植民地支配をめぐる列強間の対立を俯瞰すると共に、日本が植民地化の脅威という試練を乗り越え、大日本帝国憲法の制定や、日露戦争の勝利により不平等条約を改正するまでの経緯を学ぶなかで、知識と教養を身につけ、多面的・多角的に考察できるよう配慮した(第1号)。</p> <p>「西郷隆盛の文明観」では文明国としての日本のあり方を問う西郷の高い道徳心について記述し、道徳心を培うことを考慮した。(第2号)</p> <p>「佐野常民と赤十字社」では、日本赤十字の設立経緯と日清戦争時における日本赤十字社の献身的な活躍を叙述することによって、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うよう考慮した。(第3号)</p> <p>「明治期における領土の設定」「国旗国歌の由来」ではわが国の領土の確定や、国旗・国歌の由来を叙述するなかで、わが国を愛する態度を養うよう配慮した。(第5号)</p> <p>「日本美術を救ったフェノロサと岡倉天心」では日本の美術の再認識するなかで、日本の伝統と文化を尊重し、それらを</p>	<p>42～69 ページ</p> <p>47 ページ</p> <p>69 ページ</p> <p>51、63 ページ</p> <p>69 ページ</p>

	育んできたわが国と郷土を愛する態度を養うよう考慮した。 (第5号)	
近代化と現代的な諸課題	第1編のまとめとして近代化の歴史のなかで現代にまで引き 続き取り組まれている現代的諸課題を見出し、考察できるよ う5つの観点による主題(テーマ)例を掲げ、その一つを具 体的に展開して示すことより、取り組み方法を示した。(第2 号) 例示は「開発と保全」について取扱い、日本が明治以後の森 林の荒廃から、森林の復活させた事例とともに、アフリカで の植林活動にも触れ、環境破壊の問題の解決方法を思考する 配慮をした。(第4号)	70～73 ページ 72ページ
第2編 国際秩序の変化 や大衆化と私たち 国際秩序の変化や大衆化 への問い	「国際秩序の変化や大衆化への問い」においては、二つの大 戦をはさんだ国際秩序の変化や大衆化をめぐる5つのテーマ に基づく諸資料を提示し、生徒たちが自ら問いを立てて思考 し、興味関心を抱けるよう工夫した。(第1号) 「女性の生活様式」では女性の社会進出についてふれ、女性 の活躍の場が急激に広がっていったことにふれた。(第3号)	74～79 ページ 79ページ
3章 第一次世界大戦と 大衆社会の出現 5節 総力戦と第一次世 界大戦後の国際協 調体制 6節 大衆社会の形成と 社会運動の広がり	3章では、世界中を巻き込んだ第一次世界大戦と、その後のア メリカの台頭やソ連の成立による世界情勢の変化、大衆社会 の形成や社会運動の広がりの中での普通選挙の実現や女性参 政権の拡大、第一次大戦後に世界の主要国となったわが国の 状況などを叙述し、幅広い知識と教養を身につけ、多角的な 考察ができるよう配慮した。(第1号) 「坂東俘虜収容所と第九」ではドイツ人俘虜を手厚く遇した 日本人とドイツ人俘虜との心の交流を記すことにより、正義 や責任、自他の敬愛と協力を重んじる態度を養うよう考慮し た。(第3号) 新渡戸稲造・安達峰一郎など国際協調を基調とする国際社会 で活躍した人物を取りあげ、公共の精神に基づき、主体的に 社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うよう考 慮した。(第3号)	80～103 ページ 83ページ 82、102 ページ
4章 経済危機と第二次 世界大戦 7節 国際協調体制 の動揺	4章では、第一次世界大戦後の国際連盟を軸とした国際協調 体制が世界恐慌によって揺らぎ、第二次世界大戦へと突入す る過程を扱った。さらに第二次世界大戦の終結後、冷戦の起 源に触れ、戦後の世界秩序がどのように構築されたかを叙述 し、その中において日本が独立を回復するまでの過程につい	104～125 ページ

<p>8 節 第二次世界大戦後の国際序と日本の国際社会への復帰</p>	<p>て扱った。資料を多角的に示し、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うよう考慮した。(第1号) 戦後の領土問題では今までの学習を踏まえ、現代の問題を学ぶとともに、わが国と郷土を愛する態度を養うよう配慮した。(第5号)</p>	<p>125 ページ</p>
<p>国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題</p>	<p>第1編の「現代的諸課題」に続き、主題を設定して課題を見出し、資料を活用して課題解決のための考察を展開できるよう配慮した。5つの観点毎にテーマを例示し、活用する中で自主・自立の精神を養い、自ら探究する姿勢を養えるよう配慮した。(第2号) 例示では「統合と分化」を観点に「人種のるつぼと移民排斥」を取り上げ、現代的な諸課題の一つである「移民」問題について取り上げた。(第3号)</p>	<p>126～129 ページ 128～129 ページ</p>
<p>第3編 グローバル化と私たち グローバル化への問い</p>	<p>「グローバル化への問い」では、「近代化への問い」「国際秩序の変化や大衆化への問い」を踏まえつつ、グローバル化する現代に直結する諸課題について、生徒たちが自ら思考し、問いを立てて自ら学ぶ工夫を行った。(第1号)</p>	<p>130～137 ページ</p>
<p>第5章 冷戦と世界経済 9 節 国際政治の変容 10 節 世界経済の拡大と日本の高度成長</p>	<p>5章では、第二次世界大戦後の脱植民地化によるアジア・アフリカの独立の動向や、米ソ冷戦下の地域紛争や日本の戦後処理問題、アメリカの公民権運動や中ソ対立など、東西両陣営の内部動向を踏まえつつ、核兵器の管理体制がいかに構築されていったのかを扱った。また、ヨーロッパ共同体やASEANによる地域統合の動向や、社会主義経済の広がりなど世界の動向を踏まえつつ、日本の高度経済成長の光と影についてまとめた。(第1号) 歴史 View「沖縄の祖国復帰」では、戦後アメリカの施政下におかれた沖縄が学校教育やテレビ・ラジオ放送において日本語を使うなど本土に復帰するための長期展望を見据えていたこと、東京オリンピックの聖火リレーを機に日の丸の小旗での歓迎や国旗掲揚をアメリカが黙認せざるを得ない状況を作り出したこと、世界の歴史にも稀な平和裏の領土返還がなされたことなどを、沖縄県復帰記念式典の屋良朝苗沖縄県知事のあいさつを紹介するなどして詳述し、我が国と郷土を愛する態度を養うよう配慮した。(第5号)</p>	<p>138～153 ページ 152 ページ</p>

<p>第6章 世界秩序の変容と日本</p> <p>11節 市場経済の変容と課題</p> <p>12節 冷戦終結後の国際政治の変容と課題</p>	<p>6章では石油危機から大きく変化した国際経済の状況やアジアをはじめとするNIE S諸国などの経済成長や技術革新の状況を叙述し、現代が直面する世界の状況について考えられるよう配慮した。(第1号)</p> <p>地域紛争の問題を取り上げるとともに、コラム「緒方貞子の国連活動」では、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと、男女平等の視点も考慮して叙述した。(第3号)</p> <p>発展学習③「捕鯨と日本人」では、「捕鯨」という課題を通じて我が国の歴史・文化・伝統を現代に生かす方途について叙述し、我が国と郷土を愛する態度を養い、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう考慮した。(第5号)</p> <p>「自衛隊の国際貢献」「日本の国際協力とODA」では、日本の国際貢献を扱い、具体的に叙述することで、正義や責任、自他の敬愛と協力を重んじる態度や国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うよう考慮した。(第3号)</p>	<p>154～173 ページ</p> <p>169 ページ</p> <p>162～163 ページ</p> <p>171,172 ページ</p>
<p>現代的な諸課題の形成と展望</p>	<p>「歴史総合」の学習の総まとめとして、自ら主題(テーマ)を設定し、調べ、考え、まとめ、表現し、新たな課題を見出すという学びのサイクルの確立をめざし、学びの手引きとなるよう配慮した。さらに史料批判などの史料の取り扱い方の解説も掲載し、歴史的な見方・考え方を身に付けられるよう配慮した。(第1号)</p>	<p>174～179 ページ</p>
<p>裏見返し</p>	<p>裏見返しに日本地図と世界遺産を紹介し、わが国の伝統と文化の特色を理解できるように配慮した。(第5号)</p>	<p>裏見返し</p>

<p>3、上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色</p> <p>「歴史総合」が、従来の通史ではなく、近現代の歴史と現代的諸課題を結びつけ、生徒自らが主題(テーマ)を設定し、追究できる思考力・判断力・表現力を身につけさせることをめざしていることを踏まえ、以下の諸点にも配慮した。</p> <p>① 問いを構造的に喚起するため見開きページ毎冒頭に「第1の問い」を設定し、末尾に問いの追究を示唆する「第2の問い」を設けるなど意を用いた。</p> <p>② 問いや現代的諸課題において、主題(テーマ)の設定や、資料の読み込みなど取り組み方について示唆し、「現代的な諸課題の形成と展望」に結び付くよう配慮した。</p> <p>③ 本文中の初出の人物には生没年を付記することによって時代との連関に気付けるよう配慮した。</p>

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
102-91	高等学校	地理歴史科	歴史総合	全学年
※発行者の 番号・略称"	※教科書の 記号・番号"	※教科書名		
221 明成社	歴総 712	私たちの歴史総合		

1、編修上特に意を用いた点や特色

- (1) 平成30年3月改訂の高等学校学習指導要領により再編された地理歴史科の必履修科目である「歴史総合」の性格を踏まえ、その目的を達成するために学習指導要領に定められた趣旨に忠実な編修をめざした。
特に、主体的・対話的で深い学びを実現するために配慮した。全体を通じて、生涯にわたって探究を深める未来の担い手を育てるために、社会事象の歴史的な見方・考え方を身につけ、歴史の大きな変化を見据えて現代的な諸課題に取り組み、近現代の歴史を俯瞰して生徒みずからが生きる歴史の位置を見定め、地に足の着いた思考力・判断力・表現力を身につけられるよう留意した。
- (2) 「歴史総合」が必履修の基礎教科であることに鑑みて、生徒が学びやすいように、一つの項目を見開き完結として、わかりやすくすることで生徒の学習における便宜を図るよう心掛けた。正確な表現、平易で分かりやすい表現となるよう意を用いた。
- (3) 各見開き冒頭には、これから学習する内容に関する「第1の問い」を設け、問題意識をもって授業に向かえるようにし、見開き末尾にも「第2の問い」を設け、次の学びにつながるように考慮した。
- (4) 写真や地図などの図版を豊富に組み込むことで、視覚的にも訴える紙面構成にして、生徒に興味・関心を持ちやすいようにした。
- (5) 多様な視点から学習を深めてもらうため、「コラム」や「歴史 View」を多く組み込み、生徒の興味・関心をさらに広げ、高められるように工夫した。
- (6) 人物を様々な形で多く取り上げ、生徒が、人物を通して歴史の学びを体験できるよう配慮した。特に歴史 View では人物にスポットをあてるテーマも取り扱い、より深く学べるようにした。
- (7) 「生徒一人一人が生涯に渡って探求を深める未来の創り手」になることを目標に、生徒の言語活動を充実させるため、「問い」や「現代の諸課題」のテーマの学びから、興味・関心を持ち気づきや問いを持てるように留意した。さらにそこから進んで学び、探究していくきっかけができるように、「現代の諸課題」には参考になるようなテーマを挙げた。課題探究の進め方を掲載し、学びの手助けになるよう設定した。末尾に史料批判などの史料の取り扱い方の解説を掲載した。

4 明治期の施策	日本の明治維新や大日本帝国憲法の		1
5 大日本帝国憲法の制定	制定		1
4 節 列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容			1
1 欧米列強による世界分割	列強の進出と植民地形成	56～69	1
2 世界に広がる植民地		頁	1
3 日清戦争とその後の展開	日清・日露戦争		1
4 国運をかけた日露戦争			
近代化と現代的な諸課題 明治期における森林の活用と植林	近代化と現代的な諸課題 開発・保全	70～73 頁	3
第2編 国際秩序の変化や大衆化への問い 国際秩序の変化や大衆化への問い	C 国際秩序の変化や大衆化と私たち (1) 国際秩序の変化や大衆化への問い	74～79 頁	2
① 国際関係の緊密化と世界大戦	国際関係の緊密化		
② アメリカ合衆国とソビエト連邦の台頭	アメリカ合衆国とソビエト連邦の台頭		
③ 植民地独立に対する考え方	植民地の独立		
④ ラジオにみるマスメディアの発達	大衆の政治的・経済的・社会的地位		
⑤ 女性の生活様式	生活様式の変化		
3章 第一次世界大戦と大衆化への問い 5 節 総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制	(2) 第一次世界大戦と大衆社会	80～91 頁	
1 第一次世界大戦の展開	第一次世界大戦の展開		1
2 日本やアジアの経済成長	日本とアジアの経済成長		1
3 ソビエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭	ソビエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭		1
4 ナショナリズムの動向と国際連盟の成立	ナショナリズムの動向と国際連盟の成立		1
6 節 大衆社会の形成と社会運動の広がり		92 ～	
1 大衆の政治参加と女性の地位向上	大衆の政治参加と女性の地位向上	103 頁	1
2 大正デモクラシーと政党政治	大正デモクラシーと政党政治		1
3 大量消費社会と大衆文化	大正消費社会と大衆文化		1
4 教育の普及とマスメディアの発達	教育の普及とマスメディアの発達		1
4章 経済危機と第二次世界大戦 7 節 国際協調体制の動揺	(3) 経済危機と第二次世界大戦	104 ～	
1 世界恐慌の襲来	世界恐慌	109 頁	1

2	ファシズムの伸長と日本の国内動揺	ファシズムの伸長		1
3	日本の対外政策	日本の対外政策		1
8節	第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰		110 ~	
1	第二次世界大戦の展開	第二次世界大戦の展開	125 頁	1
2	国際連合の成立とブレトン＝ウッズ体制	国際連合国際経済体制		1
3	冷戦のはじまりとアジア諸国の動向	冷戦の始まりとアジア諸国の動向		1
4	連合軍の占領と戦後改革	戦後改革と日本国憲法の制定		1
5	平和条約の締結と日本の独立回復	平和条約と日本の独立の回復		1
	国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題 人種のるつぼと移民排斥	(4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	126 ~ 129 頁	3
第3編	グローバル化と私たち グローバル化への問い	D グローバル化と私たち (1) グローバル化への問い	130 ~ 137 頁	2
①	冷戦と国際関係	冷戦と国際関係		
②	人と資本の移動	人と資本の移動		
③	高度情報通信	高度情報通信		
④	食料と人口	食料と人口		
⑤	資源・エネルギーと地球環境	資源・エネルギーと地球環境		
⑥	感染症	感染症		
⑦	多様な人々の共存	多様な人々の共存		
5章	冷戦と世界経済	(2) 冷戦と世界経済		
9節	国際政治の変容		138 ~	
1	脱植民地化と非同盟諸国	脱植民地化とアジア・アフリカ諸国	145 頁	1
2	冷戦下の地域紛争と日本の戦後処理	冷戦下の地域紛争		1
3	先進国の政治の動向と中ソ対立	先進国の政治の動向		1
4	冷戦下の軍備拡張および核兵器の管理	軍備拡張や核兵器の管理		1
10節	世界経済の拡大と日本の高度経済成長		146 ~	
1	地域連携が進む西ヨーロッパと東南アジア	西ヨーロッパや東南アジアの地域連携	153 頁	1
2	社会主義経済の広がりや影響	計画経済とその波及		1
3	高度経済成長下の日本	日本の高度経済成長		1
第6章	世界秩序の変容と日本	(3) 世界秩序の変容と日本		
11節	市場経済の変容と課題		154 ~	
1	2度の石油危機	石油危機	163 頁	1
2	アジア諸地域の経済発展	アジアの諸地域の経済発展		1

3 市場開放と経済の自由化	市場開放と経済の自由化		1
4 情報通信技術の発展	情報通信技術の発展		1
12 節 冷戦終結後の国際政治の変容と課題		164 ~	
1 冷戦の終結	冷戦の終結	173 頁	1
2 民主化の進展	民主化の進展		1
3 地域統合の拡大と課題	地域統合の拡大と変容		1
4 頻発する地域紛争への対応	地域紛争の拡散とそれへの対応		1
現代的な諸課題の形成と展望	現代的諸課題の形成と展望	174 ~	
探究する課題の段取り	探究する活動	179 頁	3
探究する活動における「主題」(テーマ)と「問い」〔参考例〕			
資料はどう取り扱うのか		予備	4
		計	70